

# 平成27年度 事業報告書

自 平成27年4月1日

至 平成28年3月31日

公益財団法人 性の健康医学財団

## 平成27年度 事業報告

公益財団法人 性の健康医学財団

### 【事業概要】

性の健康、とりわけ性感染症を取り巻く昨今の状況は、梅毒患者が今もなお急増していることでも明らかのように広く一般市民の間で蔓延し続けている。

特に青少年は、性感染症に対する知識の不足や罹患の危険性についての危機感が乏しいのが実情で、これを放置すれば未来を担う若者の性の健康を大いに損なう恐れがある。

ここに性の健康、性感染症に関する正しい知識の普及啓発はますます重要性を増していると言える。

当財団は、従来から実施している各種普及啓発活動とともに、中高等学校へ赴いての性感染症出前講座、Eメールによる性の健康相談、性感染症予防活動に従事する助産師、保健師、看護師、医療スタッフおよび学校で性教育を担当する養護教諭ならびにカウンセラーなどを対象とした性感染症予防基礎講座、また臨床現場の医師を対象として最新知識を提供する性感染症最新講座の開催等を通して、性感染症の早期発見、予防啓発を行うなど蔓延防止のための様々な取り組みを展開してきた。

また、当財団提唱の市民への啓発行事である「第15回性の健康週間」は、厚生労働省、文部科学省等の後援のもと、各自治体、保健所等に予防啓発への展開を呼びかけるとともに、行事の一環として市民公開講座を東京都千代田区の都市センターホテルにて開催、青少年をまじえて普及啓発を成功裡に実施することができた。

平成27年度においては、このように前年度までの実績を踏まえ以下に詳述する各種事業を実施した。

### 1 第15回「性の健康週間」事業の実施

平成27年11月25日から12月1日迄の1週間、厚生労働省、文部科学省、公益社団法人日本医師会、公益財団法人エイズ予防財団の後援を得て、実施した。

なお本事業は、当財団の社会的公益的使命に基づいて行う事業活動の要であり、加えて厚生労働省が推進している「健やか親子21」運動の一環としても位置づけている。

(1) 市民公開講座の開催

12月6日(日)に「性の健康はいのちを守る」をメインテーマに市民公開講座を開催した。

開催場所 都市センターホテル(東京都千代田区平河町)

参加人員 約100名

座長 東京大学名誉教授 財団理事長 北村 唯一

帝京科学大学教授 東邦大学名誉教授 齋藤 益子

演者

「素晴らしい生命—親のいのちを受け継ぐ奇跡の誕生」

内田産婦人科医院 助産師 内田 美智子

「女性スポーツの現状と課題」

オリンピックメダリスト 筑波大学准教授 山口 香

「英国における性感染症の実態と対応」

英国・セクシャルヘルス専門看護師 Colin Roberts

(2) 「性の健康週間」ポスターの作成・配布

「性の健康週間」のポスターを作成(1,100部)、国、各自治体、保健所関係団体等に配布した。

2 性の健康相談事業

Eメールによる性の健康相談

性に関する様々な相談メールに対し、適切な助言・指導を行った。

平成27年度1年間の相談メールは、379件(昨年比約1.35倍)であった。

3 青少年の性感染症予防のための情報提供事業

若者世代へ性感染症予防に関する情報を提供することを目的に、ホームページを随時改訂し情報提供を行った。

4 その他の普及啓発活動

(1) 機関誌ジャーナル「性の健康」とニューズレター「性の健康」の発刊・配布

機関誌ジャーナル第14巻第1号(6月30日)・第2号(11月10日)とニューズレター第15巻第1号(6月30日)第2号(1月30日)をそれぞれ1,200部発刊し、会員及び関係機関等に配布した。

(2) 性の健康医学に関するホームページ

性の健康情報に関する財団のホームページにて、医師、保健師等医療関係者、養護教諭等学校関係者、一般市民、製薬会社、郵送検査事業等関連事業者それぞれに益する最新情報等を公開した。

(3) 第7回臨床現場の医師のための性感染症最新講座の開催

『エボラ出血熱・渡航感染症を含めた性の健康・STD講座』

本講座は、臨床で性感染症を診ている医師を対象に最新の知見や情報を提供し、感染症に関する予防啓発のため講座を開催した。

開催日時 平成28年1月17日(日)13時00分から17時00分

開催場所 エッサム神田ホール(東京都千代田区神田鍛冶町)

出席者数 40名

講演内容

開会挨拶・ショートスピーチ

「男性性器のHPV浸淫度から性感染症を考える」

公益財団法人 性の健康医学財団 理事長 北村 唯一

講義1 「男性更年期障害の診断と治療」

公益財団法人 性の健康医学財団 理事

社会福祉法人 同愛記念病院 泌尿器科 部長 西松 寛明

講義2 「渡航感染症」

公益財団法人 東京都保健医療公社 荏原病院 副院長 大西 健児

講義3 「HIV感染症診療の最先端」

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

医療情報室長 塚田 訓久

講義4 「エボラ出血熱の現状とその対応策」

厚生労働省 健康局 結核感染症課 感染症情報管理官

感染症情報管理室長 宮川 昭二

(4) 第9回医療従事者と養護教諭のための性の健康基礎講座の開催

『ストップ The 梅毒!!-性感染症を予防するために私たちにできること-』

助産師、保健師、看護師、医療スタッフ、養護教諭、カウンセラーなど性の健康活動に従事する者を対象とした医療従事者と養護教諭のため講座を開催した。

開催日時 平成28年2月14日(日)10時00分から16時00分

開催場所 東京大学医学部2号館1階小講堂(東京都文京区)

受講者数 50名

講演内容

司会進行 帝京科学大学教授 東邦大学名誉教授 齋藤 益子

東京大学大学院 講師 松崎 政代

ウエルカムスピーチ 今、性の健康支援者に求められていること

公益財団法人 性の健康医学財団 常務理事 齋藤 益子

講演1 梅毒の動向・疫学 増加している背景

まりこの皮膚科 院長 本田まりこ

講演2 梅毒の検査と治療

公益財団法人 性の健康医学財団 理事長 北村 唯一

ランチョンセミナー 専門医に聞く！STIのそこが知りたい

座長 性の健康医学財団 常務理事 齋藤 益子

演者 宮本町中央診療所 所長 尾上 泰彦

講演3 郵送検査でのHIV/AIDS・梅毒の実態と陽性者への対応

アルバコーポレーション代表取締役 萬田和志

実践報告 カウンセラーとなり相談者への対応がどう変わったか

佐久大学看護学部教授 弓削美鈴/東邦大学医療センター 伏見枝莉

参加型ワークショップ 性の悩みのいろいろ—あなたはどうか対応しますか

司会 性の健康医学財団評議員 木村好秀/東京大学大学院講師 松崎政代

コメンテーター 東峯婦人クリニック 名誉院長 松峯 寿美

#### (5) 性の健康カウンセラー講座の開催

助産師、保健師、看護師、医療スタッフ、養護教諭など性の健康活動に従事する者を対象とした医療従事者と養護教諭の資質の向上と相談技能の取得を目的として講座を開催した。

開催日時 (基礎) 平成27年8月22日(土)・23日(日)、

9月5日(土)・6日(日)

(応用) 平成27年9月11日(金)・12日(土)

10月24日(土)・25日(日)

開催場所 東京大学医学部泌尿器科医局等(東京都文京区)

受講者数 (基礎) 10名 (応用) 13名

#### (6) 高校生を対象とした性感染症(STI・STD)講座

全国の高等学校生を対象として、教育現場に於いて正しい性感染症の予防と知識を講義した。

27年度実施学校名	実施日	対象者
鹿児島県立種子島高等学校	平成27年7月2日	2年生男女136名
蒲田女子高等学校	平成27年7月6日	1・2年女子352名
県立神奈川総合産業高等学校	平成27年7月6日	定時制1年男女93名
千葉県立天羽高等学校	平成27年7月15日	全校生301名
群馬県立前橋工業高等学校	平成27年9月25日	定時制1~4年105名
群馬県立館林高等学校	平成27年9月28日	1~3年470名
神奈川県立鶴見総合高等学校	平成27年11月6日	2年生233名
群馬県太田市立城東中学校	平成27年12月2日	3年生男女118名
東京都立六本木高等学校	平成28年1月28日	定時制2~4年18名
川崎市立橘中学校	平成28年2月26日	3年生350名
神奈川県立新城高等学校	平成28年3月16日	1年生男女273名

#### (7) 全国保健師性感染症予防対策研修会

わが国の性感染症の感染率は、若い世代を中心に高い現状が続いているため、保健師や助産師等が性感染症の予防対策について、地域の住民や関係者に正しい知識を提供することが重要となっている。

このため、保健師や助産師等に対して、性感染症に関する研修を行い、性感染症の予防対策を強化することとする。

回数	実施日	場所・参加人員
第1回	平成27年10月4日	岡山県岡山市 参加者約40名
第2回	平成28年1月13日	岐阜県岐阜市 参加者約90名

### 5 調査研究事業

#### (1) 「男性性器の HPV 年齢層別検出率の継続調査」

子宮頸がんの大部分はヒト・パピローマ・ウイルス（HPV）が原因ウイルスであり、この HPV には 200 型以上の異なる型が存在し、その中で 16 型、18 型などが高リスク型 HPV とされ子宮頸がんを、6 型、11 型などは低リスク型 HPV と呼ばれ主に尖圭コンジローマを惹き起こすとされている。これらの HPV の感染を予防するために子宮頸がんワクチンが開発され、臨床で使用されている。

これらのことから、一般健常女性の HPV 浸淫率はある程度明らかになっているが、HPV の保菌者ともいえる男性に関して年齢層別 HPV 罹患率は、未だ詳細が不明のため、男性の HPV 罹患率及びその型を調査することは学術的にも非常に意義がある。このため本事業を平成 27 年度においても調査を継続実施した。

#### (2) 「若年女性の HPV 感染の実態と性に関する健康調査」

HPV ワクチンが導入されて数年が経過した現在、キャッチアップ年代の接種状況や性感染症に対する前方視的な波及効果が期待される状況にある。この時期に HPV の感染状況を調査し、さらに経年的に縦断調査として感染状況を検査していくことが性の健康に関する検討事項として必要であるため平成 24 年 2 月より調査を継続実施している。

#### (3) 「妊産婦に潜在する性感染症罹患率実態調査（尖圭コンジローマ）」

最近の性感染症は、臨床症状がなく無自覚のうちに一般市民の中にかかり広がっていると推測される、そこで日本産婦人科医会の協力を得て妊産婦の性感染症の実態検査を行い、調査し難い一般市民女子人口内に、広く潜在する性感染症疫学的実態を明らかにすべく、今年度は尖圭コンジローマを対象として、調査を実施した。

## 6 性の健康医学研究推進のための助成

### (1) 性の健康医学財団賞

財団は、大正 10 年 10 月に財団法人日本性病予防協会として設立して以来、平成 23 年 10 月をもって創立 90 周年を迎えた。その記念事業の一環として、性感染症を始め性の健康を損なう諸要因を医学的に究明して性に関する医学技術の発展を図るため、性の健康医学財団賞を設けた。

本賞の研究課題は、性の健康分野、泌尿器科分野、産婦人科分野の三分野それぞれの委員会において厳正な審査のうえ、理事長が決定するものであり、5 回目の平成 27 年度受賞者は後述の者とされ、平成 27 年 10 月 22 日学士会館にて実施された授賞式において、表彰状及び金一封（30 万円）を添えて表彰された。

### 平成 27 年度性の健康医学財団賞受賞者

- 産婦人科分野 Oral vaccination against HPV E7 for treatment of cervical intraepithelial neoplasia grade 3(CIN3) elicits E7-specific mucosal immunity in the cervix of CIN3 patients  
川 名 敬  
東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座准教授
  
- 泌尿器科分野 Impact of penile rehabilitation with low-dose vardenafil on recovery of erectile function in Japanese men following nerve-sparing radical prostatectomy  
中 野 雄 造  
神戸大学大学院医学研究科腎泌尿器科学分野講師
  
- 性の健康分野 勤務看護職の高校生への出張による性教育活動「体験」から考える活動継続への支援  
高 知 恵  
大阪府立大学地域保健学域看護学類  
母性看護学・助産学分野助教

(2) 日本性感染症学会との連携事業の一環として、学術奨励賞受賞者へ研究助成金（10 万円）を交付した。

7 役員会及び評議員会等の開催

- (1) 理事会 第1回（平成27年5月19日）  
平成26年度事業報告・収支決算について  
第2回（平成27年6月5日）  
役員を選任について  
第3回（平成28年3月10日）  
平成28年度事業計画・収支予算について
  
- (2) 評議員会 定時（平成27年6月4日）  
平成26年度事業報告・決算報告について  
役員を選任について
  
- (3) 監事監査（平成27年5月15日）  
事業報告及び収支決算の監事監査実施
  
- (4) 常任理事会 適宜開催した（年間5回実施）

## 平成27年度事業報告書附属明細書の作成について

平成27年度事業報告に関して「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

平成28年5月  
公益財団法人 性の健康医学財団